

白浜レスキューネットワーク通信 4月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

<http://srnw.or.jp>

e-mail yabiumi@gmail.com

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

4月1日～4月30日

保護件数 4件

帰宅件数 1件

生活自立支援活動

4月1日～4月30日

滞在者数 18人(男性10人、女性8人)

自立件数 1件(男性1名)

○デイサービスやショートステイなどを利用しながら共同生活を続けている男性は、今月も変わらず元気に過ごすことができた。デイサービス先が変わったが、そこにも慣れた様子。

○警備会社に就職した男性は、4月に保護した男性と二人部屋になった。男性本来の優しさが活かされ、良い関係を作ってくれている。

○給料を貯金して行くことが始まった50代男性は、地味だが、言われた仕事は忠実にする力がある。この先、どうしていききたいか考える元気は出て来ただろうか。

○新聞配達をしている50代男性は、共同生活に加わって良かったと思っているとのこと。前向きにいろいろなことを考え始めている。

○まちなかキッチンで働く40代男性は、営業を中心に、これまでの経験を活かしつつ、頑張っている。自分の課題に取り組んでいる意識もあり、精神的にも落ち着いているようだ。

○まちなかキッチンで働く30代男性は、これまでの仕事に加え、ホテルの社食で責任をもってもらうことに。今後は、数人の仲間をまとめていくことが求められる。

○通信高校3年生となる10代男性は、ここでの生活が好きで、ここを離れたくないという気持ちがあるらしい。しっかり力を付けて卒業していけるようにがんばってほしい。

○生活体験が少なく、何をするのも時間がかかる女性は、自分のことは自分ですることを常にながらんでいる。やれることが増えたことを喜べたり、それが次への活力になっていくか様子を見ている。

○昨年共同生活に加わっている女性は、そろそろ、自宅に帰ろうかと考え始めたようだ。ここでの経験を通して、自宅に戻ってもやり直せるかもしれないと希望が出て来たとのこと。具体的に変える時期を相談し始めた。

○80代女性は、自宅に帰って生活できるか試す期間を設けることになった。まずは一週間ゴールデンウィーク中に帰って生活してみることに。その後、さらに一カ月ほど、長期期間試してみようと話している。

○まちなか惣菜で働く50代女性は、残してきた家の管理で苦勞している。いろいろ整理することなど考えるとしんどいようだ。

○まちなかキッチンとコンビニを掛けもちしている20代女性は、まちなかキッチンの事務仕事を増やした。週5日の早朝バイトも続けられている。○50代女性は、できることが増えているが、いつもできないことばかり考え、暗い顔をしていることが多い。また感情的になることが多い。

○筋力が低下し、手足がしびれて動きづらい体となっている男性は、少し鬱陶気が変わった。前向きになったようだ。前向きになった気持ちを続けられるかが問題だ。いつも、前向きになると、今度は他人のできないところが気になり

始め、不満がたまり、裁き始めて、攻撃的になる。そして人間関係で行き詰る。この繰り返しを止める手立てを講じていく必要がある。

○串本から来た70代男性は、連休明けには生活保護の手続きが完了する予定。串本でアパートを探すことになる。

○22日に保護した70代の男性は、とても礼儀正しくはきはきと話し、腰が低い印象を与えるが、見せているほど本音は違うところにあるように思う。様子見の時間を長く持つことにする。

○29日に保護した夫婦は、ほぼ引きこもった状態を続けている。ご主人が相当疲れているようだ。散歩に出かけたり時々しているが、積極的に周りとう交流しようという動きはない。もうしばらく様子を見ようと考えている。

自殺予防活動

・フードバンク、フードドライブ

グルメシティの白浜店様、新庄店様、東陽店様、明洋店様、万呂店様、御坊店様、ショッピングセンター様のご協力に感謝。

また多数の方から、食料品(お米、野菜、缶詰、おもち、ケーキ、パンなど)の提供を頂き感謝。

白浜町在住の男性に、まちなかキッチンの無料の弁当を毎日届けている。

また衣類の提供や日用品も沢山いただいている。送ってくださった方々に感謝している。

テレフォンカードの提供も感謝。

・明誠高校和歌山白浜SHIP(定時制高校)

昨年4月から通信制高校を始めたが、夏以降、理事長の二度にわたる手術入院もあり、まだまだ生徒は一人という状況だ。

しかし、人不足、金銭不足、物資不足も、スタッフのアイデアと熱意で乗り越え、新年度を迎えることができた。

明誠高校和歌山白浜SHIPは、進学先の選択肢の一つに入れてもらうには、地域において、まだまだ知名度も低い状況だ。

しかし、今まで無かったところから生み出し

ていくわけだから、知名度も信頼も、築き上げていくものだから、毎日毎日が勝負だ!

今年度は3年生を抱えている。就職活動も考えていかなければならない。最初の卒業生を出していく今年度、新入学生も得られるように努めていきたいと考えている。

・コペルくん活動

現在5名の小学生が来ている。丁寧に宿題をし基礎学力を高め、しっかり遊んで社会性、協調性、基礎体力を養うことを目指している。

音楽(合唱や合奏)を通して、梓の中に入ること。周りとはわさる楽しさ。みんなで完成させていく喜びなどを体験してもらっている。